

事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和 5年 3月 20日

公表: 令和 5年 3月 27日

事業所名 : たけのこらんど 第2教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	0		
	2	職員の配置数は適切である	3	2	・利用児童の人数により、4名配置体制と5名配置体制の日を設定し、業務に支障のない体制にしている。	・毎日5名体制がだったら安心。 ・常勤もう一人いた方が安心感はある。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	3	2		・玄関や床の段差がある現在は支障なし。 ・車いすの対応は難しい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間になっている	5	0		
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	0		
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	0		
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	0		
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	5		
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	0		
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5	0		
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	0		
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5	0		
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5	0		
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	1	決定した活動内容については、ミーティング等で全職員に周知している。	非常勤職員などはシフトの関係上、立案に加わる時間が無い、または少ない場合があるが、今後は参加できるよう努力していく。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	0	・固定化し観察していきたい活動もあるが、新しい活動も入れる事で、児童の可能性を見出していきたい。	・地域資源は固定で利用し地域との関りを持っている。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	5	0		
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	0	・翌日の打ち合わせで行っている	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	0		
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	0		
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5	0		

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	0		
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5	0		
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0	5		・対象児童がいないため。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0	5		・対象児童がいないため。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	2		・移行支援は行ってないが、担当者会議などで情報交換はしている。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	1		・移行支援は行ってないが、担当者会議などで情報交換はしている。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	0		・研修はないが、担当者会議等は行っている。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	3	2		・コロナの影響で交流は難しい。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	2	3		・コロナの影響で開催自体がなかったが、今後は積極的に参加していく予定。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	0		
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	2	3	・ペアレントトレーニングは行ってないが、特別に支援が必要なご家庭には、ニーズを考慮し個別で支援を行っている。	・今後は、事業所内で行っている支援の方法を、保護者に実際に見ていただき、ご家庭でも活用いただけるようなトレーニングのかたちを勤めていきたい。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	0		
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5	0		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	0		
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	5		・コロナの影響で今までは開催が難しかったが、今後は保護者同士の交流会を開催し、同じ悩みを抱える方々のコミュニティ作りを計画していきたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5	0		
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	0	・お便りの発行や、不定期ではあるが、SNSを更新している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	5	0		
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	0		
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	5	・コロナの影響で実施できない	・今後は夏祭りや、見学会等を計画し、開催の検討していきたい。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4	1		・すべての職員(新人職員含む)に各マニュアルを周知し、いつでも、どの職員(非常勤職員含む)でも緊急時に対応出来るように準備しておく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	1		・消防署での火災訓練は、コロナの影響で出来ていなかったが、今後は緩和されて出来るようになる見込み。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5	0	・契約時に、確認している。 ・保護者からの情報を元にスタッフで共有し把握している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	1	・現在、重症のアレルギー症状のある対象児童がいないため	・軽症のアレルギー症状のある児童においては、アレルギー検査結果表を職員で周知し、除去の必要な食べ物等は把握している。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	1		・新人職員には、入社時より必要に応じて適宜記録を残しておくように指導していく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	0	・毎月の会議で議題にしている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5	0	・毎月の会議で議題にしている。 ・対象児、および保護者へは説明し了解を得て、身体拘束承諾書にサインを頂いている。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。